

# — 研究報告を受けて —

## コミュニティセンターより

今年度「生涯学習事業」の1つとして、渡源織物さんから「端切れ」をご提供いただき、「手芸教室」を開催し、タペストリーと吾妻袋を作りました。山大生の皆さんからご提案いただいた「見る」、「知る」、「触れる」機会として今後、通年の事業としても開催していきたいと思っております。

また、コミュニティセンターの玄関の壁は、開館当初から様々な「長井紬」のパネルを飾っています。今後は、パネルの入れ替えや技法などを紹介したものの展示などもぜひ行いたいと思っております。

さらに、現在「Beyondちほう2020」として小学校とコミセンが連携しながら事業を展開しています。「長井紬」に関する資料をまとめ、致芳小学校に寄贈することも検討したいと考えています。



人気の「手芸教室」



### 渡源織物 渡邊 徹さん

「長井紬」の魅力と技を次世代に繋ぐために、皆さんからご提案いただいたアイデアに挑戦してみたいと思っております。着物は、「民族衣装」と位置づけられており、世界中で洋服が愛用されているなかでも、まだまだ伸びしろがあるとも言われています。頑張りたいと思っております。



### 長岡織物工房 長岡 正幸さん

若手の皆さんの新鮮なアイデアに刺激を受けました。家族経営で細々と「長井紬」を織っておりますが、新たな事業にも挑戦してみたいという意欲と探求心が出てきました。今度は、ぜひ、実際に織っているところをお見せしたいと思っております。



子どもの頃の体験は心に残る



致芳の逸品が並び、人気の「ALL 致芳市」

## 長井市より

今回の活動は、総務省の令和2年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業を活用し、致芳コミセンさんのご協力をいただきながら進めてきました。長井市では、これまでも山形大学を始め、様々な大学の現地調査・研究を受け入れてきていますが、今後は学んでいただいたことを、地域課題の解決や新たな価値の創出に還元できるような体制をつくっていきたく考えています。今回参加していただいた大学生へのアンケートから、ALL致芳市など直接イベントに関わってみたい、長井紬をもっとPRしたいという意見もありました。首都圏の大学生もそうですが、学生の意識も変わってきており、地域に関わりたいと考える地域外の人が増えていようです。今後も、そういった「関係人口」に地域へ入ってもらい、活性化につなげていければと思います。

### 編集後記

山形大学の皆さんには、コロナ禍の中、お越しいただきまして、ありがとうございます。本来であれば、もっと対話しながら調査研究を進めたかったのが本音です。これからは、就職活動なども始まると伺いました。もし時間がある時は、致芳地区で開催するイベント等に顔を出してください。一緒に企画段階から加わっていただければ幸いです。ぜひ若いエネルギーとアイデアをお貸しください。ありがとうございます。

### 【参考文献】

- ・ふるさとめぐり致芳
- ・長井のひとびと第14集
- ・農工調和の地方田園都市



コミセンには「長井紬」のズラリ